

新春企画展 -New Year Exhibition-

Yokai Ritual Dance -Yokai to read from Kagura-

あやかし の舞

— 神楽からみる妖怪 —

2020.12.24 [木]

— 2021.3.9 [火]

※2021年2月11日(木・祝)から展示替え

■会 場 / 湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)企画展示室
 ■開館時間 / 9:30~17:00(入館は16:30まで) ■休館日 / 水曜日、年末年始(12/29~1/2)
 ■入館料 / 一般480円、高・大学生320円、小・中学生160円
 ※「チームラボ 妖怪遊園地」に入場の場合、料金が異なります。 ※企画展・常設展は共通のチケットです。

■協 力 / 三次市観光振興神楽協議会、(以下50音順)穴笠神楽団、伊賀和志神楽団、備後神楽社中、布野神楽団、茂田神楽団、横合神楽団
 ■主 催 / 湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)



湯本豪一記念
 日本妖怪博物館
 三次もののけミュージアム
 Yumoto Koichi Memorial JAPAN YOKAI MUSEUM
 Miyoshi Mononoke Museum

「大江山絵巻」下巻(部分)宅間悠山 寛延元(1748)年



2



1

あやかし舞

— 神楽からみる妖怪 —

日本の伝統芸能「神楽」。広島県は豊富な種類の神楽が伝わる地で、近年は身近な芸能としても親しまれています。演目の中には、大蛇や鬼、土蜘蛛など、さまざまな妖怪が登場します。中でも多くみられるのが、「鬼」です。神楽を演出する面などにも鬼を用いて、妖怪の姿が表現されています。

古来、人々はさまざまな災厄、邪悪な出来事の原因として生み出された想像上の存在を「鬼」と名付け、恐れ、時に敬ってきました。時代とともに、「鬼」という言葉の意味するものや、その姿かたちは変化し細分化され、多種多様な妖怪へと展開していきます。

現在、公演される神楽の妖怪は、人々が恐れ敬うだけの存在ではなく、悪の主人公として舞台上で跳梁跋扈し、人々を惹きつける存在へも変化しています。

本展では、当館所蔵資料とあわせて、三次市の神楽団にご協力いただき、神楽面や衣装なども展示します。「妖、すなわち妖怪」の舞を「神楽」から読み解くなかで、妖怪変化史をたどり、妖怪の物語から広がる表現の多様化を紹介します。



5



4



3

同時開催中

2020年11月19日(木)～2021年2月16日(火)

常設展示室「日本の妖怪」冬の妖怪をテーマに展示をおこなっています。
常設展示室「稲生物怪録」絵巻を主に、一部資料の展示替えをおこなっています。

1. 「那須野ノ原九尾老狐討取」歌川国久 江戸時代 大判錦絵3枚続
2. 「木曾街道六十九之内 京都 鶴 大尾」歌川国芳 嘉永5(1852)年 大判錦絵
3. 「鬼窟」昭和54(1979)年 茂田神楽団所蔵
4. 「諸国周遊奇談」巻之五 文化3(1806)年
5. 「蜘蛛退治巻物」(部分)江戸時代

広島から	JR芸備線快速(広島駅→三次駅)約1時間20分 JR芸備線普通(広島駅→三次駅)約1時間50分	高速バス(広島BC→三次もののけミュージアム)約1時間30分 自動車(山陽道～中国道経由)約1時間10分
広島空港から	自動車で約1時間10分 約56km	
福山から	JR福塩線(福山駅→三次駅)約2時間45分 自動車(山陽道～尾道自動車道経由)約1時間15分	
大阪から	高速バス(新大阪駅→三次駅前)約4時間55分	
松江から	自動車(山陰道→松江自動車道)約1時間20分	
三次駅から	自動車で約5分 約2.1km	



妖
湯本豪一記念
日本妖怪博物館
三次もののけミュージアム
Miyoshi Mononoke Museum

〒728-0021 広島県三次市三次町1691-4
TEL.0824-69-0111 FAX.0824-69-0112
<https://miyoshi-mononoke.jp/>